

自ら考え豊かに表現する生徒の育成 —かかわり合い高め合う授業づくりを通して—

糸魚川東中学校チーム

佐藤 孝幸 (M1)

栗田 和恵 (M2)

松本 修 (アドバイザー)

0 はじめに

糸魚川市立糸魚川東中学校の研究概要

平成24・25年度新潟県中学校教育研究会の
国語研究の指定校

研究主題

「自ら考え豊かに表現する生徒の育成
—かかわり合い高め合う授業づくりを通して—」

0 はじめに

支援の方向性

①資料提供

(具体的な指導内容にかかわる資料の提供)

②指導案検討

(具体的な指導についての提案)

③授業参加

(学習において、授業者の補助的な役割で参加)

研究主題の達成に向けて

支援校の取組

- ・学習形態の工夫→学習者がかかわり合い
- ・書く活動や話す・聞く活動
→思考力・判断力・表現力を育む授業づくり



「言語活動の充実」を意識した取組



言語活動を中核に据えた授業実践が有効

言語活動の定義

松本(2012)

探究的な課題のもとに、活用を図ることにより、言語的思考にかかわる知識・技能および教科にかかわる知識・技能をたしかなものとする、言語による表現を伴う相互作用的な活動

Ⅱ 学習デザインの実際

松本(2012)の言語活動の定義を基に、

探究的な課題の設定

習得・活用を図る知識・技能の
明確化

2年生の授業実践

(1) 単元構想の意図

〈探究的な課題の設定〉

総合的な学習と関連づけ職場体験先に礼状を書く
活動の設定

〈習得・活用を図る知識・技能〉

- ①書く順番は、よいか。
- ②体験や感想、わかったこと、学んだことが具体的に書いてあるか。
- ③誤字、脱字、文法的な間違い、敬語の使い方間違いはないか。

(2) 学習デザイン

① 単元名 「気持ちを込めて書こう～手紙を書く～」

(2年1組 31名)

② 教材名 「気持ちを込めて書こう」

③ 単元の目標(主なもの)

・相手の立場や状況に配慮し、具体的な体験などについて表現を工夫させて手紙を書くことができる。

・相手に伝えたい内容の中心を明確にし、それが明確に伝わるように構成を工夫することができる。

・手紙の形式を理解し、相手に応じた適切な敬語の使い方ができる。

④ 単元の流れ 報告書参照

(3) 成果と課題

① 成果

交流前後のワークシートや下書きと清書の比較、グループでの交流時に書かれた他の学習者からのコメント、学習後の振り返りシートから、学習者YAについて分析する。

〈交流前の下書き(一部抜粋)〉

職場体験の時には、私たちがのために時間をさえて教えてください。あ
りかどうございました。館内も回ったときに和を中心とした部屋がたくさんあ
り、日本らしい感じがしました。②また、アポ取りでは、マナーがすごい
大事だと言う事が分かりました。敬語の使い方や相手への接
し方が社会にでて大事だと分かりました。Q たたみを一枚一枚でい
ちいふいたり、会場の机やすいなど、こまかな所まで気をつけてやったりする
の、その丁寧な感じが、自分たちもびっくりです。
仕事も丁寧な感じが、自分たちもびっくりです。
Q 会場の机が低くなり、仕事も丁寧な感じが、自分たちもびっくりです。
下書きに気をつけて仕事に取りこんでください。

〈交流後の清書(一部抜粋)〉

さて、職場体験の時は私たちのために貴重な時間を割い
て教えてください。ありがとうございます。体験してみても置
を一枚一枚丁寧にふいたり、宴会場の机やすいなどを細かい
所まで気をつけてセッティングをすることがすごく大変だと言
うことが分かりました。三日間でも大変な仕事なのに焼
山温泉の比白様は毎日やっていることがすごいなと思いま
した。また、敬語の使い方、相手への接し方は社会にで
て必要なことだと分かりました。
気温が低くなり仕事も大変だと思えますがお体を大切
になさってください。

観点 「書く順番はよいか」



交流でのコメント

田
置 (た-み)

さいて → 割りいて

「さいて」をつけたほうがいいと思う

交流後の 振り返り

自分が、こは漢字を使わなくていいと思っ^た所が班の人に
見てもらったら使った方がいいと
アドバイスをくれたので手紙を
もらった相手もそう感じるんだな
あーと田^んびった。

前文の 下書き

焼山温泉の比白様におかれましては、
ますますこ清祥のこととお感^あび申し上げます。



前文の 清書

焼山温泉の比白様は、
お客様が増え忙しい頃かと思ひます。

単元の終末での 振り返り

相手がもらったらどのような気持ち
になるのかも考えながらかくことがで
きよかった。

② 課題

・ワークシートの記述は、内容への感想と言葉の間違いを正すだけに留まり、他の学習者に対する質問や意見を交流するような交流活動にはならなかったグループが多くあった。

このことを受け、以下に改善案を示す。

○交流場面での観点の明確化

○自他を比較する、関連づけるという思考技術
や交流のモデルを示す。

○学習デザインの改善

3年生の授業実践

(1) 単元構想の意図

◆ 中学校指導要領改訂

古典の学習が「伝統的な言語文化に関する事項」として位置付けられ「古典に一層親しむ態度を育成することを重視する。」



従来 of 文法や口語訳、暗唱重視の形骸的な受験のための古典学習のあり方を再考し、見直しを図るべきであるとの提案

〈探究的な課題の設定〉

「額田王の「君待つと吾が恋ひ居れば我が宿の簾動かし秋の風吹く」に対して返歌をつくろう」

〈習得・活用を図る知識・技能〉

- ・ 額田王の短歌の表現形式の良さを意識する。
- ・ 贈答歌の条件であるキーワードを使い、それに自分なりの思いを込め返歌を創作する。
- ・ 返歌する立場を自分で設定する。

(2) 学習デザイン

- ① 単元名 額田王の「君待つと～」に対して、返歌を創作しよう。 (3年1組 35名)
- ② 教材名 「君待つと吾が恋ひ居れば我が宿の簾動かし秋の風吹く」 額田王『万葉集』
- ③ 単元目標
 - ・ 作者が歌に込めた思いを想像し、作者にどんな言葉をかけるか考え、返歌を作ることができる。
 - ・ 短歌創作や短歌交流会をとおり、短歌とは何か自分なりに説明することができる。
- ④ 単元の流れ 報告書参照

(3) 成果と課題

①成果

学習者が創作した短歌

秋

たし人

わ

秋

●学習後の振り返り

- ・短歌の交流を通して自分では考えられないようなことをたくさん発見してもらえた。(中略)短歌の一部を抜き出してそのことについて感想をいってもらうことができてうれしかった。
- ・前までは、短歌や和歌は難しいものと思っていました。でも短歌を学習し、短歌を作ると楽しいし、相手に気持ちを伝えることができるのでとてもいいものなんだなと改めて感じました。

◆松本・井上(2011)

「伝統的な言語文化」の学習をデザインをするための必要な条件

- ① 探究的な課題を出発点に、学習者が教材の伝統的な言語文化としての価値を見いだす学習過程を作ること。
- ② 個々の学習者が見いだした伝統的な言語文化としての価値を共有するためのコミュニティな学習を作ること。
- ③ 探究的な課題につながる教材の価値を掘り起こすための教材研究を深めること。

②課題

交流の観点の明確化

「簾動かし秋の風吹く」について、学習者個々の解釈をもとに、自分の返歌で用いるキーワードをどうとらえ、そのキーワードにどのような意味を込めて返歌を創作したのかを交流する。



学習者同士で額田王の歌の素晴らしさを共有することにつながる。

学習デザインの改善案

第1次	<ol style="list-style-type: none">1 活動目標の「額田王の歌に対して返歌を創作する」を学習者に知らせる。 学習者個々に、短歌の「簾動かし秋の風吹く」を口語訳させ、グループで交流する。2 グループで考えを交流し、自分や仲間の考えを比較し、なぜそう考えたか理由を交流する。3 グループでの話し合いの様子を代表者が発表する。4 二組の贈答歌を例示し、贈答歌を作るポイントについて考え、グループで交流する。5 グループでの話し合いの様子を代表者が紹介する。
第2次	<ol style="list-style-type: none">6 額田王の「君待つと～」の歌に対し、返歌を創作する。
第3次	<ol style="list-style-type: none">7 作品をグループで交流する。
第4次	<ol style="list-style-type: none">8 創作した自身の返歌と鏡大王の返歌(風をだに恋ふるは羨し風をだに来むとし待たば何か嘆かむ)を比較する。9 短歌とは何かと聞かれたらどのように答えるか、考えて書く。

Ⅲ 支援を通じた学び

- ① 学習者に応じた探究的な課題を設定する。
- ② 習得・活用する知識・技能を明確にする。
- ③ 必要感のあるタイミングで交流活動を設定する。
- ④ 観点を明確にし、交流の手立てやモデルを示す。

IV おわりに

〈引用文献〉

- 1) 松本修:「言語活動をどうとらえ、どう組織するか」, GroupeBricolage紀要, No.30, pp.11-13, 2012
- 2) 植山俊宏:「伝統的な言語文化の言語活動を考えるー創作学習の視点からー」, 『国語教育』, 第70集, pp.3-5, 全国大学国語教育学会編集, 2011
- 3) 松本修:『文学の読みと交流のナラトロジー』, pp.83ー84, 東洋館出版, 2006
- 4) 松本修・井上幸信:「伝統的な言語文化の学習を成立させる条件」, 『臨床教科教育学会誌』, 第11巻第2号, pp.81-87, 臨床教科教育学会, 2011